

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	グループホーム あらた
所在地	鹿児島県鹿児島市荒田一丁目51番14号 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	平成24年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の意思決定を尊重し、いきいきと暮らせるための健康づくりを目指し、その人らしい暮らしを大切にしている。ご利用者、ご家族、職員の連携がとても良好な関係にあり、ご家族の面会や行事への参加も多い。職員は内・外部研修などで、認知症の中核症状を理解して、日々ご利用者と向き合っているためBPSD(心理・行動障害)を出さないケアを実践している。小学校・地域住民への認知症理解の普及活動を継続的に実施し信頼関係が深められている。災害時、特に夜間帯は人員配置が希薄なため「地域の力」が獲得され、強力な緊急連絡体制が確立されている。近隣の事業所・地域住民と協働して“あらたの地域と歩む会”を発足し活動にいたっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者が、いきいきと暮らせるように、事業所内の内部研修や各種委員会活動が取り組まれており、看護師や介護福祉士・管理栄養士等の有資格者が多く配置され、よりよいサービスが提供できる体制が整っているホームである。
- ・家族会が年2回開催され、行事への参加や面会も多く、家族からの要望等についても文書にて開示し、家族と信頼関係を築けるよう取り組んでおり、家族や利用者からも評価されている。
- ・町内会の行事や清掃作業へ参加したり、幼稚園との交流や小中高校生の職場体験学習や研修の受け入れ、地区の勉強会等の講師依頼を受けたり、地域での福祉相談も受けている。ボランティアや慰問もあり、積極的に地域との交流を行っている。
- ・運営推進会議には、家族や地域住民の代表・消防・交番の職員も出席し、意見交換の中から、近隣の事業所と地域住民と協働して活動する「あらたの地域と歩む会」が発足するなど、地域貢献の成果も出ている。
- ・協力医療機関が近くにあり、緊急時に往診もあり、医療連携体制ができている。また、看護師を配置し、利用者や家族にとって安心できる環境である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を捉えた独自の理念を掲げ、日々のケアにおいて実践するべく、その重要性を全職員が認識している。	理念は事業所内に掲示し、パンフレットにも載せている。職員で話し合い、新たに基本理念を作成して、毎朝唱和している。全体ミーティングや内部研修等で、理念について確認し合い、職員はよりよいサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者は、孤立する事なく地域の一員として地域清掃活動にも参加、幼稚園や校区小学生との交流も開設時から続いている。日常の散歩では、地域住民との交流を持つ事ができる。	町内会に加入して、地域の行事や清掃作業に参加し、ボランティアや慰問も受け入れている。幼稚園との交流や小・中・高校生の職場体験等や研修の受け入れを行っている。地区の勉強会の講師をしたり、相談にのるなど、積極的に地域との交流を行っている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小学校、地域住民に認知症サポーター養成講座を開催し、地域ケア会議で認知症ケアについて話し、相談も受けている。地域の福祉委員として活動している。地域と連携して「あらたの地域と歩む会」の発足に尽力し、参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、利用者の暮らしぶりや運営状況について報告。又、課題を挙げ検討し、幅広い意見を頂いている。時期によっては、自己・外部評価を通しての意見は現場でのケアの質向上へとつなげている。</p>	<p>家族や地域の代表・民生委員・消防署や交番・地域包括支援センターの職員等が出席して会議を行っている。避難訓練を同日に行う等の工夫もしている。外部評価の結果についてや活動内容等を報告し、意見交換を行っている。会議から「あらたな地域と歩む会」が発足し、地域貢献に繋がっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業者の運営に関する事、運営規定の改正、自己・外部評価を届け、市との密な連携を図っている。市の介護相談員を受け入れ、ご意見など頂き協力関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議に、地域包括支援センター職員が定期的に出席しているが、必要に応じて、市担当課へ出向き相談や情報交換を行い、関係づくりを心がけている。介護相談員も受け入れ、利用者へのサービス向上につなげている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部・外部研修で、基準も含め拘束が及ぼす影響を理解し、利用者の尊厳ある生活を問いながら開設以来、身体拘束ゼロである。委員会も定期的開催し、ミーティングで報告し職員の意識の継続を図っている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。新任職員研修や内部の勉強会を行ったり、外部研修に参加する等、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずに、自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修で高齢者虐待防止も学び、身体拘束廃止・高齢者虐待防止対策委員会として定期的に委員会を開催し、特に心理的虐待は事例を通してスタッフの言葉かけはどうか？振り返りを習慣化し、委員会で検討して防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部・外部研修を通して、権利擁護が「利用者中心のケア」につながる事を職員は認識している。現在、利用者で制度を利用される対象はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明を重視し例えば、料金・支払い方法・リスク・医療連携体制など利用者、家族が理解・納得・安心して契約につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を明記し、意見箱も気兼ねなく書ける環境づくりをしている。ご意見などは、運営推進会議にも提示し意見をいただく。ご意見・ご要望などに対する対応策を委員会で明確にして、開示している。	利用者へアンケートを行ったり、日頃の生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは、年2回の家族会や面会時に意見や要望等を聞いている。要望等は文書にて回答し、運営推進会議にも報告している。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回開催される管理会議・全体ミーティングなどで職員の思いや、意見を伝えられる環境が整っている。運営者と現場が一体となって現場の声が反映され、良好な関係である。	代表者は、全体ミーティングや管理会議に出席し、職員の要望等を聞いている。管理者も、毎月のミーティングや日常的に、職員から運営に関する意見や要望等を聞き、コミュニケーションをとるように心がけている。また、勤務希望についても配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務年数により、昇給や全体ミーティングへ出席した職員への休日出勤手当など、適切な対応がなされている。毎年、健康診断も実施、有給休暇も無理なくとる事が出来る環境で、個々のスキルアップへ役立っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人教育、フォローアップ研修など段階に応じた教育、研修プログラムを作成、年間研修計画もあり実施している。ミーティング時を利用して報告会も開催。ケア指導者の配置により、色々な場面で知識が深められる環境にある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県GH協議会に加入して、他事業所と情報共有し見学交流もしている。年間を通して多くの研修生（実習）を受け入れ、その後、研修生とのネットワークができケアの質向上につなげている。又、「あらたの地域と歩む会」主催の定期的な会合に出席し、交流を持っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始までに訪問できる方とは思いや不安などを受け止め、安心して頂けるよう信頼・関係性を大切にしている。利用開始されたら、環境変化による不安を取り除くために個別でゆっくりと向き合い、安心な生活環境に馴染んでいただけるよう支援を行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の不安、悩みなど家族の立場に立って受け止め、信頼・関係性を大切にしている。時には、家族の思いとのずれが生じることもあるが真摯に受け止め、事業所全体の課題として「家族の満足度を高められるように」努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者に今、何が必要であるか、困っている事、不安を抱えている事などを受け止め、適正なサービスを利用していただけるよう、見極め能力を重視し支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の生活機能に重点を置き「できること」を活かす環境で、職員と共に喜びを分かち合い、感謝の気持ちを共に大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のことを家族と常に情報交換している。行事等は、家族に支援もいただく機会もある（花見・敬老会・忘年会など）。面会時は、利用者・家族が水入らずでゆっくり向き合い、団欒される環境を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年付き合ってみえた馴染みある地域の友人、知人などが気持ちよく来訪できる雰囲気大切に、ゆっくり、くつろいでいただけるよう環境を整え、支援に努めている。	家族や知人・友人が気持ちよく訪問できるように雰囲気大切に、歓迎して馴染みの関係を保つようしている。利用者の要望で、馴染みの美容院や墓参り等への外出支援は、家族の協力をもらい実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、個々に応じた仲間づくりを大切にしている。気のあった利用者同士が楽しく団欒できる雰囲気もある。お茶・食事の時間は、皆で和気あいあいとした笑いの中で楽しい時間である。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され病院生活の利用者を、利用者・職員でお見舞いに行ったり、家族の相談ごとにも気持ちよく受け入れている。退去された本人・家族が来訪された時は、利用者と共に歓迎している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の個々の思いを真摯に受け止め、暮らしたいように支援する。思いや要望など、アンケートで聞き取りも実施する。自分の思いを言葉にできない方は「サイン・シグナル」で受け止め、家族からも思い・意向を聞き検討している。	利用者へアンケートをとったり、日々のふれあいの中で、思いや意向の把握に努めている。意志疎通が困難な人には、サインやシグナルから読み取り、家族からも入居時や面会時等に情報を得ている。本人の意思を尊重した生活ができるように、職員が情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール「センター方式」を活用し、基本情報は家族に記入してもらい、利用者のバックグラウンドを知ることが重視している。情報を得る時は、プライバシー保護への配慮も欠かさないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個々の体力、理解力など総合的視点に立ち、その人らしく暮らしていただけるよう、個々の生活リズムの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向、時には主治医の意見、職員の気づきやアイデアを反映し、アセスメント・モニタリングを繰り返し、利用者本位のより良い暮らしを支える介護計画を作成している。	利用者や家族の意見を聞き、毎月のケア検討会で全員で話し合い、利用者一人ひとりについて、現状に即したプランになるように作成している。介護計画の見直しは、3～6ヶ月毎であるが、状態が変化した場合は、随時見直している。モニタリングは、3～6ヶ月毎に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子など、介護サービス実施記録に記入し、実践したケアもチェック表を使用している。個別での健康記録には、食事・水分量なども記録している。記録は職員間で常に情報共有し、介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・マッサージ利用など、個々に応じた柔軟な対応をし、利用者・家族の満足度を高めるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番・民生委員・地域包括支援センター・幼稚園・保育園児・小学校児童など多くの方々の訪問があり、利用者と馴染みの関係となり安心して暮らす環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族などの希望する、かかりつけ医への受診が継続的に利用できている。又、専門医を利用する時も、利用者・家族の希望を重視し、適正な質の高い医療が利用できるように支援している。	希望のかかりつけ医への支援体制を整えている。協力医療機関が近く、定期検診や緊急時には往診もあり、看護師を配置しており、協力医療機関との連携ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師を配置、協力医の看護師の訪問もある。医療面、予防の視点での看護師の役割が機能している。介護面でも看護の専門性も発揮され、介護職との連携も良好であり、日常の健康管理も徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の適切な対応。入院中、職員が直接見舞いを兼ねて訪ね、家族や病院関係者から情報を得ながら早期退院できるように尽力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算に基づき重度化、看取り指針を定め、サービス開始時に本人・家族に説明、同意を得ている。医療ニーズが高まった時は、主治医により家族への説明があり密な連携が確立されている。	入居契約時に事業所の方針として、「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」を書面にて説明し、同意を得ている。家族会の場でも説明し、事業所でできることを職員で話し合い、主治医や家族と連携して方向性を共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当、救急救命法などの講習に参加し、急変時に対応することは身に付けている。ホームに設置してあるAEDの取り扱いの研修も業者が担当して、定期的実施している。看護師からの専門的指導もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練では、昼夜を想定し地域や家族の協力を得ている。火災だけでなく地震への備えとして、防空頭巾を作成し、訓練が日常化している。	避難訓練は年2回実施し、近隣住民も参加している。災害時の家族や住民の協力体制が確立している。地震想定自主訓練も実施し、防災頭巾を使用している。消火器の使用訓練や消防設備の定期点検を実施し、非常用の食料や水も備蓄している。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供する上で、大切にしなければならない「プライバシー保護と接遇について」内部研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し利用者の尊厳を大切にしている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、毎月のミーティング等で話し合い、内部研修も行っている。特に、利用者に対する入浴やトイレ介助時の声かけなど、人格とプライバシーを大事にした支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に表現できる関係性を構築し、自分の言葉で表現できない方は「サイン・シグナル」を感じ、自己決定を大切にしている。職員は権利擁護が守られた生活は、利用者本位の生活につながると認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして一日の生活の流れはあるも、個々のその人らしい生活を大切にしている。例えば編み物をする人、折り紙をする人、したいことができる暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の乱れ、髪の流れに配慮し、利用者の好む衣服を着て気持ちよく過ごしていただけるように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみのひとつは食事であることを職員は認識しているので、お茶の時間などで「何が食べたいですか？」と、問いながら意見をすぐ反映できるようにしている。一緒に盛り付けたり、片付けなどできる事の楽しみも味わえる環境づくりをしている。	利用者の嗜好を聞き、献立に取り入れるようにしている。家族からの野菜の差し入れもある。包丁使いの上手な利用者や下ごしら・配膳など、利用者ができる範囲で職員と一緒にいき、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を十分に飲む事を重視し、個々の食事形態にも配慮している。摂取量・水分量などを記録し、個別支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず個々にあったケアを実施し、週2回の義歯洗浄も行っている。歯科衛生士による口腔ケア指導の機会も日常にある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、「行きたい時に行く事ができるよう」支援している。尿意・便意を伝えられない方はリズムに添っての支援。パット使用が多いので、検討し排泄に関するQOLの向上につながる支援をしている。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に応じて適時に声かけをしてトイレ誘導を行っている。パットを使用するなどして、できるだけおむつをしないで済むように、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について、看護師によるアドバイスも随時あり、利用者が便秘による苦痛もなく、個々に応じた予防策（繊維の多い食材、水分、毎日ヨーグルトを食べる）を重視している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているものの、個々の希望を大切にし、無理のない支援（長く浴槽に入る方、温かいお湯の好きな方）を行う。入浴を楽しみ、癒しのひとつとしていただいている。	入浴は、週に3回のペースであるが、入浴する時間等も利用者の希望を尊重している。ゆず湯や入浴剤など使用したりして、気持ちよく入浴できるように支援しており、入浴支援時の職員とのコミュニケーションも大事にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な活動により、或いは生活リズムを整え安眠の支援を行う。日中は個々の希望、体力を消耗しないよう短時間の昼寝をして休息につなげる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」を常に目を通せる健康記録ファイルに綴じ、利用者の薬と病気との関係、副作用について理解している。又、副作用による変化も適切に把握し、適正な服薬支援が実施されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、楽しみや生き甲斐を見出すために「編み物、毎月のカレンダーづくり、家事参加」など利用者の特技が発揮できるように支援し、気分転換にはドライブや買い物に出かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の店への買い物、公園への散歩など支援している。行事計画などでは利用者の声を受け止め、日頃行けない所（花見、ソーメン流し、他）へ出かけている。家族への声掛け、文書での案内を行い参加していただき、一緒に楽しみを味わう支援をしている。	天気の良い日は公園へ散歩をしたり、近隣のスーパーへの食材購入やドライブに出かけるなど、外出希望にも柔軟に対応している。墓参り等の外出や外泊についても、家族の協力を得ながら、できるだけ希望に添えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者個人の力量に応じ家族と相談しながら、職員の管理のもとに買い物時は支払いができるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話、家族への電話はいつでも使用できる環境にある。家族からの贈り物のお礼の電話を本人が希望する時など支援している。季節によってはハガキを出す支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは清潔で明るく落ち着いて過ごせるよう、きれいな空気が流れることに配慮し、テーブルには季節の花などが飾られている。トイレ、浴室は清潔に心がけ、音、光など認知症ケアで不安・混乱を招く要素であることを職員も理解し環境づくりを工夫している。</p>	<p>リビングは、明るくゆったりとしており、利用者と職員との共同作品等が展示されている。季節感を大事にした飾り付けがなされており、畳のスペースやソファでゆっくり過ごせる居心地のよい共用空間になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ゆっくり利用者同士で会話ができるソファがある。畳のあるスペースもあり洗濯物をたたみながら会話したり、居心地の良い場所として利用されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が使い慣れた道具、テレビ、テーブル、椅子、馴染みの仏壇など持ち込まれている。物を持ち込むことで不安を感じる利用者には家族と相談して、不安のない環境づくりを支援している。</p>	<p>居室は、洋室でベッドや整理タンスが設置してある。本人の使い慣れ親しんだ家具や写真・仏壇等があり、家族用に椅子やテーブルを置いている利用者もおり、安心して暮らせる配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、廊下、浴室などに手すりを設置し、極力自立した生活が送れるよう、アセスメント・リスクも検討しながら、利用者が安全で安心した、又、生き甲斐のある生活が送れる環境づくりを目指している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない